

ハマカルアートプロジェクト 2024 成果報告会

福島県原子力被災地の今を映す映画監督らと

美術家・藤 浩志氏とともに考える ―福島×アートの今と未来―

ハマカルアートプロジェクト2024事務局（運営：株式会社Wasshoi Lab）と経済産業省は、2025年2月11日（火・祝）に東京都中央区のCity Lab TOKYOにてトークイベント：『福島をアートで映し出す』を開催します。

登壇者に、ハマカルアートプロジェクト2024で活動を行い、12市町村*各地で映画を制作した映画監督3名、そして東日本大震災から現在まで東北で活動を続ける、美術家の藤 浩志 氏を迎え、トークイベントを実施します。

東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故から14年の年月が経とうとする今、福島県の浜通りを中心とする12市町村では地域と生活の再建のための様々な取組がなされ、新たな産業も生まれている中、アートの分野においてもさまざまな取組が始まっています。この流れを受けて、経済産業省は2023年6月に福島芸術文化推進室を立ち上げ、12市町村におけるアート活動を後押しする1つの取組として、芸術家や学生による滞在型のアート制作を支援するハマカルアートプロジェクトを始めました。今年度は、登壇者3名をはじめ、18の団体・芸術家が2025年2月頃まで現地で活動を行っています。



板橋基之監督が題材にした茗野神社で上映会をした様子。地域内外から多くの観客がかけつけた。

好評に終わった第1回目に引き続き、東京での第2回目の開催を迎える本トークイベント。

ゲストに東北で活躍する美術家の藤 浩志 氏をお招きし、ハマカルアートプロジェクト2024に参画した若手映像監督の板橋 基之 氏（株式会社ベーシックシネマ）、松本 卓也 氏（合同会社シネマ健康会）、永田 琴 氏（株式会社キネマ旬報企画）と共に、東日本大震災による原子力災害を経験した福島県浜通りを中心とした12の市町村において、なぜ今アートが求められているのか、アートはまちづくりに対して何をもたらすのか、原子力被災地におけるアートは今後どのような発展を迎えるのかをテーマに議論を交わします。震災から14年が経とうとしている今、改めて福島について皆様と共に考えを巡らせることができれば幸いです。

また、トークイベントと同時開催で、今年度ハマカルアートプロジェクト2024において福島で行われた活動を紹介する活動報告展を行います。東京では普段目にする事の出来ない福島におけるハマカルアートプロジェクトの取組をこの機会にぜひご覧ください。

活動報告展に参加する作家・団体は以下の18組（団体名 / プロジェクト名 の順）

- ・ 株式会社アール・エフ・エー / 浜通りの「台」滞在制作プロジェクト
- ・ ガッチ株式会社 / 浪江学生デジタルアート道場2024
- ・ 株式会社キネマ旬報企画 / 福島浜通りシネマプロジェクト2024
- ・ 合同会社toten / Artist-in-Residence for students in Futaba
- ・ 福島大学芸術による地域創造研究所 / 鮭のぼりアートプロジェクト
- ・ 秋元 菜々美 / 土地の時間をめぐる滞在制作事業
- ・ 株式会社植田印刷所 / ロック・キッチン
- ・ 大久保 雅基 / 人工知能を用いた映像と楽器自動演奏装置の展示
- ・ 折田 千秋 / コレクティブ・イメージの制作及び展示

- ・ 川口商店 / アーティストインレジデンシ
- ・ 久留飛 雄己 / 福島の家劇場から始まる浜通りのアーティストエコシステム
- ・ 合同会社シネマ健康会 / 福島県12市町村ロケ映画プロジェクト川内村編
- ・ 旅するたたき場 / 旅するたたき場in檜葉町即興演劇「首長竜と泳ぐ」の上演とWS事業
- ・ チーム百徳 / 葛尾村の百徳
- ・ 国立大学法人東京大学大学院情報学環・学際情報学府開沼博研究室 / Dialogues between Winds and Books : 風と書の対話記
- ・ 一般社団法人とおがったプロジェクト / 震災復興の「いま」をきりとる
- ・ 株式会社ベーシックシネマ / 映画『そこにあるものべきものたち』福島浜通り縦断上映会
- ・ 松本 律子 / 川俣町の来し方行く末を、世界中で聞いて、感じる

※12市町村：東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い避難指示等の対象となった福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村および飯館村の全12市町村を指します。現在、南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村の7市町村の一部に帰還困難区域が設定されています。

トークイベントの概要

■ タイトル

福島をアートで映し出す

■ 日時

2025年2月11日（火・祝）12:45～14:45（開場 12:30）

トークイベント終了後、16:30頃まで懇親会を開催します。

■ 会場

City Lab TOKYO（東京都中央区京橋3丁目1-1 東京スクエアガーデン6階）

東京メトロ銀座線「京橋駅」3番出口直結

トークイベントに関してはオンラインでの視聴が可能です。視聴方法は申込み後にご案内します。

■ 参加費

無料

■ 申込み

現地参加・オンライン参加ともにPeatix（申込みページ）での事前申込みが必要です。

申込みページ：<https://hamacul2024talk3.peatix.com/>



申込みページの QR

■ 運営体制

共催：株式会社Wasshoi Lab、経済産業省 協力：City Lab TOKYO

ゲストスピーカー

■ 藤 浩志 氏

美術家・ディレクター

鹿児島生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、公共空間での表現を模索。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校に勤務し原初表現と人類学とヤセ犬に出会う。バブル崩壊期の土地再開発業者・都市計画事務所勤務を経て土地と都市と人間の欲望を学ぶ。

給料一ヶ月分のお米から始まる「お米のカエル物語」、不用品を活用した「101匹のヤセ犬」「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「Jurassic Plastic」等、全国各地で美術表現多数。十和田市現代美術館館長を経て秋田公立美術大学教授。



登壇者

■ 板橋 基之 氏

映画監督・脚本家。株式会社ベーシックシネマ代表。フリーのディレクターとして、映画、ドキュメンタリー、広告映像などを企画・演出する傍ら映画を撮り続けている。

実施プロジェクト名：映画『そこにあるべきものたち』福島浜通り縦断上映会



■ 松本 卓也 氏

演者・映画監督・脚本家、シネマ健康会代表。お笑い芸人として活動の後、独学で映画制作の道へと進む。オリジナリティ溢れる映画は数多くの映画祭で受賞。

実施プロジェクト名：福島県12市町村ロケ映画プロジェクト川内村編～映画制作&ワークショップ～



■ 永田 琴 氏

映画監督。2004年『恋文日和』で劇場公開デビューした後、映画、ドラマ、小説等幅広い分野で活躍。2025年秋、最新映画が公開予定。

実施プロジェクト名：福島浜通りシネマプロジェクト2024



■ 経済産業省 福島芸術文化推進室

モデレーター

■ 稲村 太郎 氏（公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター）

2011年から公益財団法人セゾン文化財団のアーティスト・イン・レジデンス事業を担当し、舞台芸術に関わる数多くのアーティストやアーツ・マネジャーの滞在の支援を行う。近年では、メルボルン郊外に拠点を置くフツクレイ・コミュニティ・アーツと先住民のアーティストの文化交流事業を手掛ける。2022年から現職。

共著「アーティスト・イン・レジデンス：まち・人・アートをつなぐポテンシャル」（美学出版、2023）

ハマカルアートプロジェクト 2024 事業ご案内

ハマカルアートプロジェクトは、福島県の浜通りを中心とした12市町村において、アーティストが一定期間滞在し地域の方々と共に芸術活動を行い、地域内外の方々と対話や交流、新たな魅力を生み出すことを目的に始まった滞在型のアートプロジェクトです。

経済産業省による補助事業として昨年度から始まり、アーティストによる事業を募集する滞在制作型と、学生の活動を中心とした事業を募集する学生制作型を設け、今年で2年目を迎えます。

事業背景

東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所の事故により、12市町村含め福島県の人々の暮らしやつながりは大きな影響を受けました。12市町村では広範囲にわたって避難指示が発令され、それらの地域で暮らす住民の方々はそれまでとは一変した生活を余儀なくされました。

本事業では文化・芸術といった人々の創造性や表現力に着目し、芸術家が一定期間地域に滞在することで得られる体験（住民との交流や当該地域に伝承されてきた歴史、伝統、生活、文化などのよさを、あらためて知ること）を、創造的活動につなげることで、当該地域の新たな価値や地域内外の人々の対話や交流を生み出すことが目的です。

将来的にはそれらの営みが地域内の人々のつながり、創造性や革新性となり、地域の暮らしのケアや活力、産業・経済を牽引する原動力となる状態の実現を目指します。

事業内容

滞在制作型と学生制作型を合わせ、18のプロジェクトが12市町村を中心に実施されています。

Press Release

2025年1月17日
株式会社 Wasshoi Lab

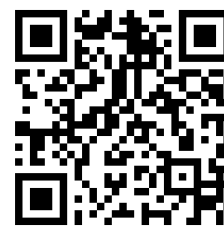
各プロジェクトの詳細や最新の活動状況につきましては、ハマカルアートプロジェクト 2024 の公式 Web サイトおよび公式 Instagram をご覧ください。

Web サイト：<https://hamacul-project.com/>

Instagram：[@hamacul_art_project](https://www.instagram.com/hamacul_art_project)



Web サイト



Instagram

■本事業お問合せ先 ★取材のお申込み、お待ちしております。

お問合せ：ハマカルアートプロジェクト 2024 事務局（株式会社 Wasshoi Lab）

メー ル： contact@hamacul-project.com

担 当：山崎・佐藤・濱野

取材をご希望される場合は、上記のメール宛てに所属・お名前・取材希望の旨を記載の上ご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

■株式会社 Wasshoi Lab 会社概要

社 名：株式会社 Wasshoi Lab

所 在 地：宮城県伊具郡丸森町町西 2 2 - 2

設 立：2016 年 1 月 5 日

資本金等：5,000 万円

代 表 者：代表取締役 齊藤 良太

事業内容：公共コンサルティング事業、マーケティング事業、観光事業、教室運営事業 等

Wasshoi Tohoku Group の株式会社 Wasshoi Lab（本社：宮城県丸森町、代表取締役：齊藤 良太）は、経済産業省 令和 6 年度「地域経済政策推進事業費補助金（映像芸術文化支援事業）」における、福島 12 市町村を中心に行われるアート活動の支援プロジェクト「ハマカルアートプロジェクト 2024」を運営しています。